

## 3月の植物（きのこ編）

### ツバキキンカクチャワンタケ

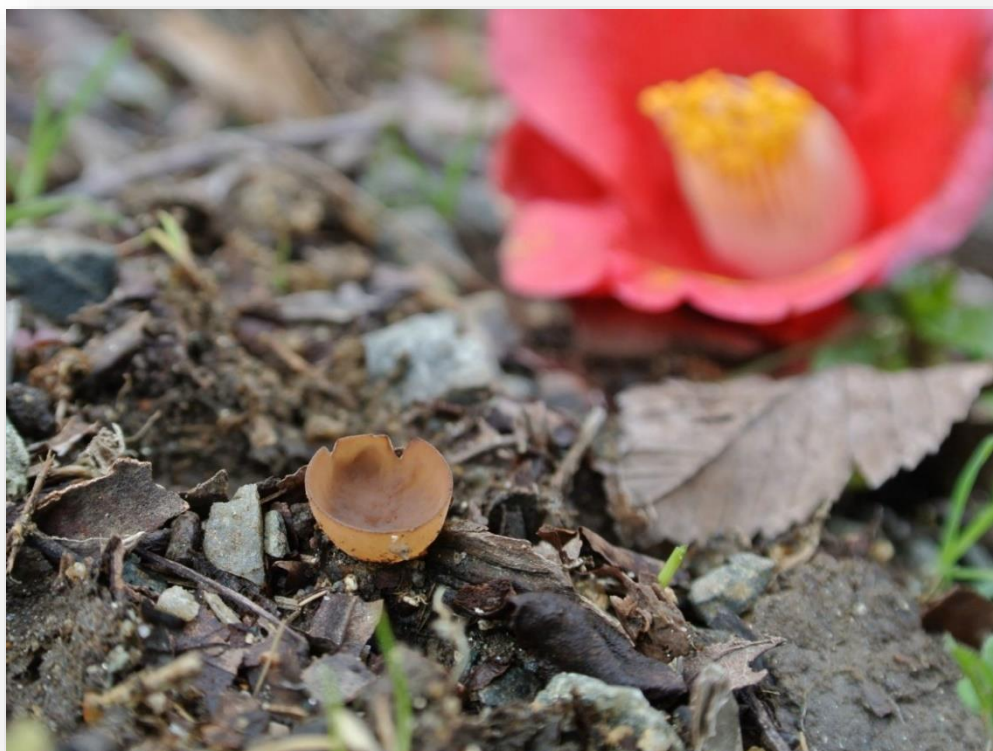
キンカクキン科ニセキンカクキン属

学名： *Ciborinia camelliae* L. M. Kohn

ツバキキンカクチャワンタケ（椿菌核茶碗茸）は椿の花しか食べない偏食さんで、まだ寒さが残る2～3月、ヤブツバキの樹下で出会えます。子のう盤（お茶碗の内側）から噴射された子のう胞子は近くに落ちている花の上で発芽し、花の組織を分解して生長します。地中に続く長い柄は偽菌核という花を圧縮した黒い破片につながっています。晩秋には菌核となり、早春、椿の花が咲く頃に再び子実体（きのこ）を生じます。なぜ椿の花にしか生えないのだろう…？サザンカの花じゃダメなのかな？と不思議で、食べ比べてみたくなります。同属では他に和名が付いている種はありませんが、モクレン類などの樹下でも仲間のきのこが報告されているようです。

佐賀県では、2016年2月22日に上峰町の鎮西山、2017年3月22日に鳥栖市の朝日山、2019年2月8日に鳥栖市のとんぼ公園、2022年2月25日に基山町の基山で分布を確認しました。落ち葉などが掃かれず、落下した椿の花が地面にそのまま残っている山野では必ずと言ってよいほど見つかります。地面の小さなお茶碗、地味な色なので目立たないかもしれませんが、ぜひ探してみてください！

（写真・文 鶴田めぐみ）



▲2016年2月22日 鎮西山（三養基郡上峰町）にて撮影

【参考】今関六也、大谷吉雄、本郷次雄 編『増補改訂新版 山溪カラー名鑑 日本のきのこ』（2011年）